

DCダイワJ-REITアクティブファンド

運用報告書（全体版） 第25期

（決算日 2019年5月10日）
（作成対象期間 2018年11月13日～2019年5月10日）

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国のリート（不動産投資信託）に投資し、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9：00～17：00）

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／不動産投信（リート）	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンドの受益証券
	ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

最近５期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			東 証 R E I T 指 数 (配 当 込 み)		投 資 信 託 券 率 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率	(ベンチマーク)	期 騰 落 中 率		
	円	円	%		%	%	百万円
21期末(2017年 5 月10日)	16,592	0	3.2	3,311.95	3.2	97.5	1,101
22期末(2017年11月10日)	15,326	0	△ 7.6	3,055.50	△ 7.7	96.0	862
23期末(2018年 5 月10日)	16,853	0	10.0	3,376.04	10.5	98.8	879
24期末(2018年11月12日)	17,630	0	4.6	3,539.86	4.9	98.6	920
25期末(2019年 5 月10日)	18,964	0	7.6	3,823.37	8.0	98.5	965

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注 2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
(注 3) 投資信託証券組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) ベンチマークは、期首の基準価額をもとに指数化したものです。

*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

*ベンチマークは東証REIT指数（配当込み）です。

■基準価額・騰落率

期首：17,630円

期末：18,964円（分配金0円）

騰落率：7.6%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券を通じて、わが国のリートに投資した結果、事業環境の良好さに比して割安感があるＪリート市場に注目が集まったことなどを背景にＪリート市況が上昇したことがプラス要因となり、基準価額も上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

DCダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブファンド

年 月 日	基 準 価 額		東 証 Ｒ Ｅ Ｉ Ｔ 指 数 (配 当 込 み)		投資信託証券 組 入 比 率
		騰 落 率	(ベンチマーク)	騰 落 率	
(期首) 2018年11月12日	円 17,630	% －	3,539.86	% －	% 98.6
11月末	17,927	1.7	3,610.49	2.0	98.4
12月末	17,583	△0.3	3,543.83	0.1	97.5
2019年 1 月末	18,424	4.5	3,709.11	4.8	98.2
2 月末	18,524	5.1	3,728.00	5.3	98.0
3 月末	19,138	8.6	3,851.10	8.8	98.3
4 月末	18,995	7.7	3,822.76	8.0	98.4
(期末) 2019年 5 月10日	18,964	7.6	3,823.37	8.0	98.5

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2018.11.13～2019.5.10)

■Ｊリート（不動産投信）市況

Ｊリート市況は上昇しました。

Ｊリート市況は、当作成期首より、海外インデックスのウエート変更でＪリート銘柄のウエートが高くなったことや好調な事業環境が評価され、上昇して始まりましたが、2018年12月下旬には、日米の株式市場が大幅に下落したことからＪリート市場も下落しました。2019年に入ると、国内株式が米国金融政策の軟化などにより反発したことや国内外での金利上昇懸念の後退、引き続き好調なオフィス賃貸市場などが好感され、上昇しました。2月初旬は公募増資の発表などを受けて下落しましたが、2月中旬から3月にかけて国内株式が上昇したこと、また米国の金融政策姿勢が一段と緩和的になったことなどにより、日米金利が低下しＪリートの相対的に高い利回りに注目が集まり、Ｊリート市況は上昇しました。4月には、新年度入りしたことを受けて国内金融機関等の利益確定売りがあり、やや下落して当作成期末を迎えました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。

■ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

ポートフォリオについて

(2018.11.13～2019.5.10)

■当ファンド

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないました。

■ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

リートの組入比率につきましては、通常の状態では信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本としており、おおむね95～98％台程度で推移させました。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資しました。個別銘柄では、当作成期を通じて見ると、ジャパンリアルエステイト、野村不動産マスターファンド、森ヒルズリートなどを東証ＲＥＩＴ指数と比較してオーバーウエートとし、日本ビルファンド、日本ロジスティクスファンド、ユナイテッド・アーバンなどをアンダーウエートとしました。

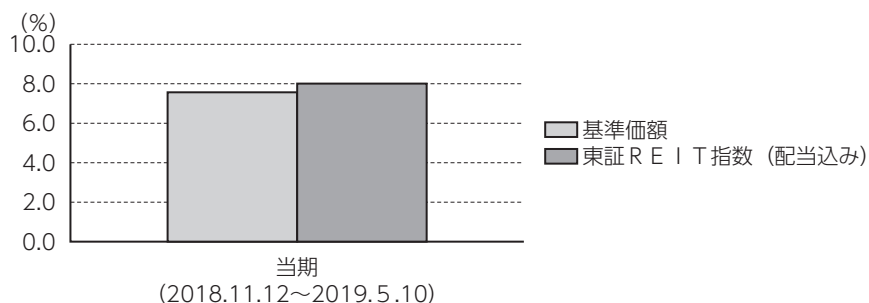
ベンチマークとの差異について

当ファンドは、ベンチマークとして東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を用いています。当作成期におけるベンチマークの騰落率は8.0%となりました。一方、当ファンドの基準価額の騰落率は7.6%となりました。

投資口価格のパフォーマンスがベンチマークを上回った積水ハウス・リートや野村不動産マスターファンドなどをオーバーウエートとしていたことや、投資口価格のパフォーマンスがベンチマークを下回ったユナイテッドアーバンなどをアンダーウエートとしていたことがプラスに寄与しました。他方、投資口価格のパフォーマンスがベンチマークを下回ったジャパンリアルエステイトや星野リゾートなどをオーバーウエートとしていたことや、ベンチマークを上回った東急リアル・エステートなどをアンダーウエートとしていたことがマイナス要因となりました。

このほか、運用管理費用や売買コスト等がマイナス要因となりました。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額とベンチマークとの騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当り）

項 目	当 期	
	2018年11月13日 ～2019年5月10日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配可能額	（円）	12,849

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

*なお、投資信託約款上の分配対象額は、上記分配可能額のうち経費控除後の配当等収益等です。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。

■ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資し、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2018.11.13～2019.5.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	73円	0.397%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は18,309円です。
(投 信 会 社)	(34)	(0.185)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(34)	(0.185)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(5)	(0.026)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	5	0.028	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投資信託証券)	(5)	(0.028)	
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	78	0.427	

- (注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
- (注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
- (注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワＪ－ＲＥＩＴ アクティブ・マザーファンド	29,305	77,722	39,144	104,268

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

(1) ベビーファンドにおける当作成期中の利害関係人との取引状況

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける当作成期中の利害関係人との取引状況

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

決 算 期	当 期					
区 分	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D／C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
投資信託証券	14,069	3,788	26.9	17,803	2,886	16.2
コール・ローン	54,194	－	－	－	－	－

(注) 平均保有割合0.9%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 利害関係人の発行する有価証券等

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

種 類	当 期		
	ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド		
	買 付 額	売 付 額	当期末保有額
投資信託証券	百万円 －	百万円 －	百万円 1,958

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(4) 利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となつて発行される有価証券

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

種 類	当 期
	ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド 買 付 額
投資信託証券	百万円 1,252

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(5) 当作成期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	259千円
うち利害関係人への支払額 (B)	78千円
(B)／(A)	30.3%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券、大和証券オフィス投資法人です。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末
	口 数	口 数 評 価 額
	千口	千口 千円
ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド	356,650	346,812 964,484

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年5月10日現在

項 目	当 期 末
	評 価 額 比 率
	千円 %
ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド	964,484 99.3
コール・ローン等、その他	7,210 0.7
投資信託財産総額	971,694 100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年5月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	971,694,898円
コール・ローン等	7,210,590
ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド(評価額)	964,484,308
(B) 負債	5,843,335
未払解約金	2,085,835
未払信託報酬	3,732,678
その他未払費用	24,822
(C) 純資産総額(A－B)	965,851,563
元本	509,311,335
次期繰越損益金	456,540,228
(D) 受益権総口数	509,311,335口
1万口当り基準価額(C／D)	18,964円

* 期首における元本額は522,012,149円、当作成期間中における追加設定元本額は69,488,439円、同解約元本額は82,189,253円です。
* 当期末の計算口数当りの純資産額は18,964円です。

■損益の状況

当期 自2018年11月13日 至2019年5月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 1,328円
受取利息	76
支払利息	△ 1,404
(B) 有価証券売買損益	67,486,661
売買益	72,679,320
売買損	△ 5,192,659
(C) 信託報酬等	△ 3,757,594
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	63,727,739
(E) 前期繰越損益金	90,746,658
(F) 追加信託差損益金	302,065,831
(配当等相当額)	(499,943,515)
(売買損益相当額)	(△197,877,684)
(G) 合計(D＋E＋F)	456,540,228
次期繰越損益金(G)	456,540,228
追加信託差損益金	302,065,831
(配当等相当額)	(499,943,515)
(売買損益相当額)	(△197,877,684)
分配準備積立金	154,475,725
繰越損益金	△ 1,328

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	63,727,930
(c) 収益調整金	499,943,515
(d) 分配準備積立金	90,747,795
(e) 当期分配可能額(a＋b＋c＋d)	654,419,240
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配可能額(e－f)	654,419,240
(h) 受益権総口数	509,311,335口

ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

運用報告書 第27期（決算日 2019年5月10日）

（作成対象期間 2018年11月13日～2019年5月10日）

ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。
主 要 投 資 対 象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券
投資信託証券組入制限	無制限

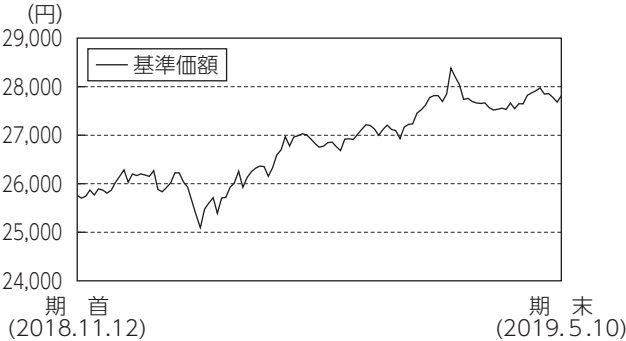
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当 作 成 期 中 の 基 準 価 額 と 市 況 等 の 推 移



年 月 日	基 準 価 額		東証ＲＥＩＴ指数(配当込み)		投 資 信 託 券 証 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	
(期首)2018年11月12日	円 25,757	% -	3,539.86	% -	98.8
11月末	26,201	1.7	3,610.49	2.0	98.6
12月末	25,712	△0.2	3,543.83	0.1	97.6
2019年 1 月末	26,962	4.7	3,709.11	4.8	98.4
2 月末	27,126	5.3	3,728.00	5.3	98.2
3 月末	28,040	8.9	3,851.10	8.8	98.5
4 月末	27,847	8.1	3,822.76	8.0	98.5
(期末)2019年 5 月10日	27,810	8.0	3,823.37	8.0	98.7

(注1) 騰落率は期首比。
(注2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。
上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：25,757円 期末：27,810円 騰落率：8.0%

【基準価額の主な変動要因】

事業環境の良好さに比して割安感があるＪリート市場に注目が集まったことなどを背景にＪリート市況が上昇したことがプラス要因となり、基準価額も上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆ 投資環境について

○ Ｊリート（不動産投信）市況

Ｊリート市況は上昇しました。

Ｊリート市況は、当作成期首より、海外インデックスの変更でＪリート銘柄のウエートが高くなったことや好調な事業環境が評価され、上昇してはまりましたが、2018年12月下旬には、日米の株式市場が大幅に下落したことからＪリート市場も下落しました。2019年に入ると、国内株式が米国金融政策の軟化などにより反発したことや国内外での金利上昇懸念の後退、引き続き好調なオフィス賃貸市場などが好感され、上昇しました。2月初旬は公募増資の発表などを受けて下落しましたが、2月中旬から3月にかけて国内株式が上昇したこと、また米国の金融政策姿勢が一段と緩和的になったことなどにより、日米金利が低下しＪリートの相対的に高い利回りに注目が集まり、Ｊリート市況は上昇しました。4月には、

新年度入りしたことを受けて国内金融機関等の利益確定売りがあり、やや下落して当作成期末を迎えました。

◆ 前作成期末における「今後の運用方針」

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

◆ ポートフォリオについて

Ｊリートの組入比率につきましては、通常の状態 で信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本としており、おおむね95～98%台程度で推移させました。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資しました。個別銘柄では、当作成期を通じて見ると、ジャパンリアルエステイト、野村不動産マスターファンド、森ヒルズリートなどを東証ＲＥＩＴ指数と比較してオーバーウエートとし、日本ビルファンド、日本ロジスティクスファンド、ユナイテッド・アーバンなどをアンダーウエートとしました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当ファンドは、参考指数として東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を用いています。当作成期における参考指数の騰落率は8.0%となりました。一方、当ファンドの基準価額の騰落率は8.0%となりました。

投資口価格のパフォーマンスが参考指数を上回った積水ハウス・リートや野村不動産マスターファンドなどをオーバーウエートとしていたことや、投資口価格のパフォーマンスが参考指数を下回ったユナイテッドアーバンなどをアンダーウエートとしていたことがプラスに寄与しました。他方、投資口価格のパフォーマンスが参考指数を下回ったジャパンリアルエステイトや星野リゾートなどをオーバーウエートとしていたことや、参考指数を上回った東急リアル・エステートなどをアンダーウエートとしていたことがマイナス要因となりました。

《今後の運用方針》

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資し、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (投資信託証券)	7円 (7)
有価証券取引税	－
その他費用	－
合 計	7

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1 万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■主要な売買銘柄
投資信託証券

当 期					期				
買		付			売		付		
銘 柄	口 数	金 額	平均単価		銘 柄	口 数	金 額	平均単価	
	千口	千円	円			千口	千円	円	
日本プライムリアルティ	4.693	2,089,221	445,178		日本リート投資法人	5.128	2,088,554	407,284	
インベスコ・オフィス・Ｊリート	105.884	1,757,457	16,597		日本プライムリアルティ	3.422	1,511,493	441,698	
大和ハウスリート投資法人	4.988	1,235,902	247,775		ジャパンエクセレント投資法人	7.772	1,229,594	158,208	
福岡リート投資法人	6.857	1,149,284	167,607		投資法人みらい	6.216	928,787	149,418	
野村不動産マスターＦ	6.994	1,037,759	148,378		積水ハウス・リート投資	11.148	917,113	82,267	
三井不ロジパーク	2.031	673,108	331,417		Oneリート投資法人	3.354	911,624	271,802	
日本プロロジスリート	2.797	662,196	236,752		ＧＬＰ投資法人	7.691	909,644	118,273	
ジャパンエクセレント投資法人	4.055	615,377	151,757		ケネディクス商業リート	3.233	868,919	268,765	
ラサールロジポート投資	5.48	584,708	106,698		日本リテールファンド	3.73	818,871	219,536	
産業ファンド	3.799	447,680	117,841		MCUBS MidCity投資法人	8.018	808,400	100,823	

(注1) 金額は受渡し代金。
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表
ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	千口	千円	%
不動産投信	0.48	52,992	0.0
サンケイリアルエステート	1.143	654,939	0.6
日本アコモデーションファンド投資法人	12.551	1,251,334	1.2
MCUBS MidCity投資法人	25.028	3,726,669	3.4
森ビルズリート	11.265	1,463,323	1.4
産業ファンド	10.093	3,128,830	2.9
アドバンス・レジデンス	12.151	2,199,331	2.0
ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人	5.2	2,399,800	2.2
ＡＰＩ投資法人	10.882	1,331,956	1.2
ＧＬＰ投資法人	4.66	1,389,146	1.3
コンフォリア・レジデンシャル	21.578	5,157,142	4.8
日本プロロジスリート	4.123	2,205,805	2.0
星野リゾート・リート	3.818	513,902	0.5
イオンリート投資	15.424	2,788,659	2.6
ヒューリックリート投資法	1.023	426,591	0.4
日本リート投資法人	134.453	2,225,197	2.1
インベスコ・オフィス・Ｊリート	0.428	72,845	0.1
日本ヘルスケア投資法	31.85	2,624,440	2.4
積水ハウス・リート投資	4.94	1,334,294	1.2
ケネディクス商業リート	3.457	391,678	0.4
ヘルスケア&メディカル投資	45.745	7,456,435	6.9
野村不動産マスターＦ			

■売買および取引の状況
投資信託証券

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
国内	173.927	14,069,211	103.448 (－)	17,803,740 (－)

(注1) 金額は受渡し代金。
(注2) 売付(－)内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
(注3) 金額の単位未満は切捨て。

(2018年11月13日から2019年5月10日まで)

当 期					期				
買		付			売		付		
銘 柄	口 数	金 額	平均単価		銘 柄	口 数	金 額	平均単価	
	千口	千円	円			千口	千円	円	
日本リート投資法人	5.128	2,088,554	407,284		日本プライムリアルティ	3.422	1,511,493	441,698	
日本プライムリアルティ	7.772	1,229,594	158,208		ジャパンエクセレント投資法人	6.216	928,787	149,418	
ジャパンエクセレント投資法人	6.216	928,787	149,418		投資法人みらい	11.148	917,113	82,267	
積水ハウス・リート投資	3.354	911,624	271,802		Oneリート投資法人	7.691	909,644	118,273	
Oneリート投資法人	3.233	868,919	268,765		ＧＬＰ投資法人	3.73	818,871	219,536	
ＧＬＰ投資法人	8.018	808,400	100,823		ケネディクス商業リート	3.233	868,919	268,765	
ケネディクス商業リート	3.73	818,871	219,536		日本リテールファンド	3.73	818,871	219,536	
日本リテールファンド	8.018	808,400	100,823		MCUBS MidCity投資法人	8.018	808,400	100,823	
MCUBS MidCity投資法人									

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	千口	千円	%
ラサールロジポート投資	13.379	1,614,845	1.5
三井不ロジパーク	5.739	2,051,692	1.9
大江戸温泉リート	8.765	759,925	0.7
投資法人みらい	1.491	72,537	0.1
森トラスト・ホテルリート投	5.838	791,049	0.7
三菱地所物流ＲＥＩＴ	2.311	596,700	0.6
ＣＲＥロジスティクスファンド	5.875	675,625	0.6
ザイマックス・リート	8.622	1,024,293	0.9
日本ビルファンド	7.199	5,147,285	4.8
ジャパンリアルエステイト	16.578	10,195,470	9.4
日本リテールファンド	20.61	4,344,588	4.0
オリックス不動産投資	26.343	5,139,519	4.7
日本プライムリアルティ	6.815	3,049,712	2.8
プレミア投資法人	6.908	955,376	0.9
グローバル・ワン不動産投資法人	1.764	227,379	0.2
ユナイテッド・アーバン投資法人	16.839	3,010,813	2.8
森トラスト総合リート	13.836	2,324,448	2.1
インヴィンシブル投資法人	39.462	2,158,571	2.0
フロンティア不動産投資	4.452	2,045,694	1.9
福岡リート投資法人	10.312	1,766,445	1.6
ケネディクス・オフィス投資法人	4.974	3,725,526	3.4

フ ア ン ド 名	当 期 末			
	□ 数	評 価 額	比	率
	千□	千円		%
大和証券オフィス投資法人	2.58	1,958,220		1.8
阪急阪神リート投資法人	2.827	420,940		0.4
スターツプロシード投資法人	4.011	698,716		0.6
大和ハウスリート投資法人	20.532	5,200,755		4.8
ジャパン・ホテル・リート投資法人	27.29	2,423,352		2.2
日本賃貸住宅投資法人	15.787	1,359,260		1.3
ジャパンエクセレント投資法人	1.725	273,240		0.3
合 計	□ 数 、 金 額	663,156	106,807,294	
	銘 柄 数 <比率>	49銘柄		<98.7%>

※ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人、日本ヘルスケア投資法人、ケネディクス商業リート、グローバル・ワン不動産投資法人、ケネディクス・オフィス投資法人、大和証券オフィス投資法人、日本賃貸住宅投資法人につきましては、各ファンドで開示されている直近の有価証券報告書または有価証券届出書において、当社の利害関係人等（投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている法人等をいいます。）である大和証券、大和リアル・エステート・アセット・マネジメントが当該ファンドの運用会社または一般事務受託会社となっています。
 (注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
 (注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年5月10日現在

項 目	当 期 末			
	評 価 額	比	率	
	千円		%	
投資信託証券	106,807,294		98.2	
コール・ローン等、その他	1,985,048		1.8	
投資信託財産総額	108,792,342		100.0	

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年5月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	108,792,342,323円
コール・ローン等	283,857,343
投資信託証券(評価額)	106,807,294,100
未収入金	502,847,071
未収配当金	1,198,343,809
(B) 負債	561,239,369
未払金	522,226,325
未払解約金	39,010,000
その他未払費用	3,044
(C) 純資産総額(A－B)	108,231,102,954
元本	38,918,513,788
次期繰越損益金	69,312,589,166
(D) 収益権総口数	38,918,513,788口
1万口当り基準価額(C／D)	27,810円

*期首における元本額は41,095,865,334円、当作成期間中における追加設定元本額は711,381,083円、同解約元本額は2,888,732,629円です。
 *当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、安定重視ポートフォリオ（奇数月分配型）15,586,819円、インカム重視ポートフォリオ（奇数月分配型）13,818,732円、成長重視ポートフォリオ（奇数月分配型）69,598,785円、6資産バランスファンド（分配型）124,192,347円、6資産バランスファンド（成長型）290,798,908円、世界6資産均等分散ファンド（毎月分配型）39,669,551円、「しがぎん」ＳＲＩ三資産バランス・オープン（奇数月分配型）1,772,953円、ダイワ資産分散インカムオープン（奇数月決算型）42,416,804円、ＤＣダイワ・ワールドアセット（六つの羽／安定コース）215,201,160円、ＤＣダイワ・ワールドアセット（六つの羽／6分散コース）285,216,643円、ＤＣダイワ・ワールドアセット（六つの羽／成長コース）361,820,243円、ＤＣダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブファンド346,812,049円、ダイワファンドラップＪ－ＲＥＩＴセレクト36,186,180,084円、ライフハーモニー（ダイワ世界資産分散ファンド）（成長型）95,431,426円、ライフハーモニー（ダイワ世界資産分散ファンド）（安定型）31,130,529円、ライフハーモニー（ダイワ世界資産分散ファンド）（分配型）149,355,379円、ダイワ・アクティブＪリート・ファンド（年4回決算型）649,511,376円です。
 *当期末の計算口数当りの純資産額は27,810円です。

■損益の状況

当期 自2018年11月13日 至2019年5月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	2,191,223,733円
受取配当金	2,191,388,683
その他収益金	422
支払利息	△ 165,372
(B) 有価証券売買損益	5,991,740,084
売買益	6,320,306,279
売買損	△ 328,566,195
(C) その他費用	△ 14,470
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	8,182,949,347
(E) 前期繰越損益金	64,754,940,718
(F) 解約差損益金	△ 4,818,905,816
(G) 追加信託差損益金	1,193,604,917
(H) 合計(D＋E＋F＋G)	69,312,589,166
次期繰越損益金(H)	69,312,589,166

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
 (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。